

めざめ

カウンセリング Q&A

学校に行かない息子、

ご家庭での居場所づくり

栃木県連合教育会相談員

Q 中学二年の長男が学校に行

かなくて困っています。ゴールデンウィーク明けから「気持ち悪い、学校を休みたい」と言い始め、それでも、なんとか登校していました。ところが、夏休み明けになり「学校に行きたくない」と言って、布団から出なくなりました。母親の私が「頑張って行ったら」と声をかけても「うるさいなあ」と怒り出し、昼頃まで部屋に閉じこもるようになってしまいました。困り果てて夫に相談すると、こ

れまで何も言わずに様子を見ていた夫も「どうして学校に行かないんだ。将来困るぞ!」と声を荒らげました。その時から息子は父親を避け「お父さんには解らない」と心を閉ざしています。それまで、夕食後リビングに居ることが多かったのですが、今は父親が帰宅すると、二階の自分の部屋で過ごすようになりました。もしかしたら体のどこかが悪いのではないかと思い、病院に連れて行きましたが、どこも悪くな

いと言われました。何か心配なことがあるかと聞いても「別に」と答えるだけです。元々よく話をする子だったのに、急に変わってしまい、これから先のことが心配です。

小学六年生の妹とも最近ほとんど話をしていない様です。妹は、兄のことを気にかけてながらも、そっとしていたいと言っています。

担任の先生が家庭訪問して下さいましたが、息子は部屋から出できません。先生の話では、学校での友達関係は特に問題なく、クラスの生徒も学校に来なくなる心当たりはないようです。スクールカウンセラーも紹介されたのですが、息子は嫌がり、行こうとしません。

このところ、父親だけでなく私のことも避けています。「このままではいけない、何とかしなくては・・・」と夫婦でやきもきしています。とにかく本人が何も話さないのです、どう接したらよいのか解らず、途方に暮れています。

A 息子さんが学校に行かなく

なり、さぞやご心配なことかと思えます。親子関係にもひびが入ったようで、なんともやるせないお気持ちではないでしょうか。

また、これからのことを考えると、何とかしなければと焦ってしまいますよね。今のところご本人が学校に行きたくない理由について口を閉ざしているため、ご両親が接し方に迷うのは仕方ないことです。

中学生の頃は、親からの心理的離乳や自分は何者かといった自我同一性の確立という発達課題に直面します。また、心身の変化が著しく、心と体のバランスが崩れやすい思春期にあることから、息子さんが登校しない理由には、身体・心理・社会面からの様々な要因が複雑に絡み合っている可能性があります。

息子さん自身、混沌とした気持ちや価値観に整理がつかず、葛藤に苦しみながら日々を過ごしているのではないのでしょうか。

このところ、ご両親を避けている様ですね。息子さんは「お父さんには解らない」と口にしていきます。今は親と話したくないか、うまく言葉にできないので、会話を避けていることが考えられます。同時に、両親の期待に応えられないことに後ろめたさを感じているのかも知れません。

思春期には、親に対して心を閉ざしたり避けたりする一方で、心の奥には見守っていてもらいたい心情もあります。息子さんは今、ありのままに受容される安心感や、くつろげる空間のある居場所を求めているのではないのでしょうか。

息子さんの心情を察すると、今は、学校に行きたくない理由を問うよりも、息子さんにとって安心できる、家庭での居場所づくりを考えた方がよさそうです。そのためには、ご両親が、息子さんへの理解と関心を示しながら、息子さん自らが話し始め、行動を始める日を焦らず待つ姿勢でいることが大切です。

まずは、お母さんが落ち着いて、いつも変わらない接し方を心がけ、見守ってあげてください。そうすることで、息子さんがご家庭に居場所感を抱きやすいベースができると思われます。「おはよう」「ご飯できたよ」と日常的に温かい声かけを続けることで、息子さんにとって家庭がいつでも戻って来られる心理的な基地となるでしょう。そして、息子さんが話し始めたら、気持ちに寄り添いながら、ゆっくりと耳を傾けてください。

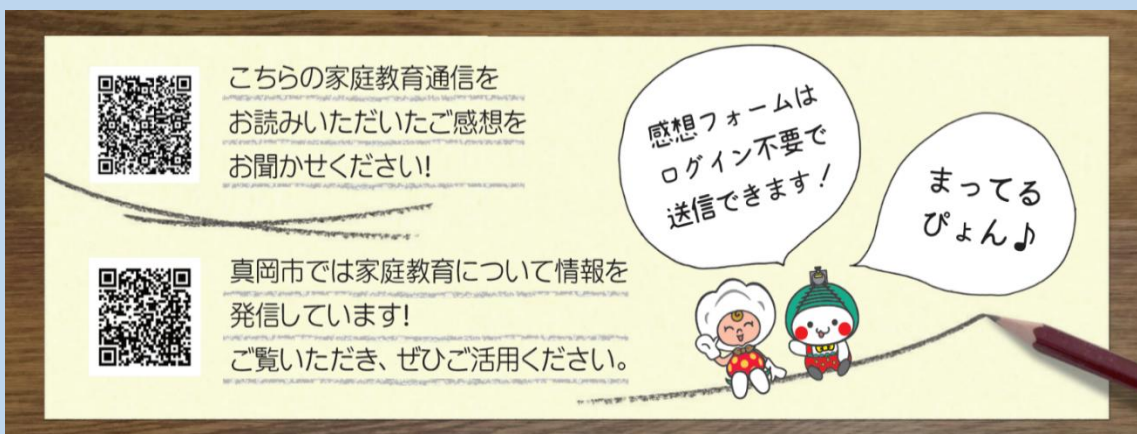
お父さんは、思春期の息子さんにとって煙たい存在になりがちです。お父さんと息子さんの社会的成熟度には年相応の開きがあり、世代間ギャップや性格の違いもあります。現段階でお父さんの持つ規範によって行動の変容を促すと、息子さんは反発するでしょう。この反発も息子さんの自立に向けての必要な過程と捉えてください。自分で決めて行動したいのだなと受け止め、おおらかに見守っていただければと思います。

もし、息子さんが話しかけてきたら、最後まで話を聞いてあげてください。お父さんが何も言わずに話を聞いてくれたことで、息子さんは自分を受け入れてもらえたと感じるでしょう。また、特に言葉を交わさずとも、息子さんの気持ちを慮りながら一緒に居るだけで、安心の場を共有できるよい機会になると思います。

息子さんが、ご両親に見守られながら、家庭でホッとできるようなになれば、徐々に会話も増えていくでしょう。その時は、息子さんの気持ちを汲み取り、アイメッセージ（自分を主語にして気持ちを伝える表現方法）で話すよう心がけてください。この接し方は、息子さんが落ち着いて自分の気持ちや価値観を整理する上での助けになります。

担任の先生との連絡も継続してください。特に学習面についてはご心配かと思いますが、息子さんの気持ちに余裕が生まれ、学校に関する話を受け入れられるよう

になってから相談されてもよいか
と思います。



こちらの家庭教育通信を
お読みいただいたご感想を
お聞かせください!

感想フォームは
ログイン不要で
送信できます!

まってる
びょん♪

真岡市では家庭教育について情報を
発信しています!
ご覧いただき、ぜひご活用ください。